

皆さん、こんにちは。YSE教育広報推進室です。新緑が日に日に色を濃くしています。鮮やかな風の中に若い命の営みが感じられる季節。今回は Guide2017 の表紙に使ったマンカラについて、ちょっとした豆知識をご紹介します。面白いと思ったら遊んでみてくださいね。

TOPIC マンカラについて

ゲームを遊び、文化を知る。5000年の歴史を越えて世界で遊ばれ続けるマンカラ。さあ、Enjoy Learning!



ゲームを大きく分類すると二つの系統に分けることができます。一つは乱数を用いるゲーム、もう一つは乱数を一切用いないゲームです。乱数を用いるゲームは非常に多く、サイコロを使うゲームは全てこのカテゴリーに入りますし、トランプや麻雀などのようにシャッフルするゲームもこのカテゴリーに入ります。高度なシミュレーションウォーゲームなどでも、敵と戦った時、どれだけの損害を与えられるか、自分がどれ程の被害を受けたかなどはサイコロを使って判定しますから、これもこのカテゴリーに入るでしょう。

コンピュータゲームでも乱数を用いていないゲームはあまりないのではないのでしょうか。RPGもスポーツゲームも乱数を全く使っていないということはありません。落ち物ゲームもそれぞれの駒

の位置、落ちて来る駒は乱数で決まっています。

ゲームの多くがそもそも神託のために作られたことを考えると、神の意志を乱数で示そうとするのは当然のことで、タロットカードのシャッフル、易のぜい竹、おみくじに到るまで全て乱数が用いられています。そうした中で全く乱数が用いられないゲームというものも古くから作られて来ました。チェス、囲碁、将棋、などがその代表的なものです。これらは互角の戦力を持ち、お互いの知能だけで戦うゲームです。こうしたゲームも現在に到るまで作られています。バトルシップ、オセロ、ダイヤモンドゲーム、野球版、みんなそうですね。こうしたゲームは恐らく本来的な意味の遊びから生まれて来たのではないのでしょうか。マンカラもこうしたゲームの一つです。



← マンカラ (mancala)

マンカラ (mancala) は、アフリカ、中近東、東南アジアにかけて古くから(紀元前4000年という説もあります)遊ばれて来たボードゲームです。ルールは非常に多様で、様々なローカルルールがあり、その種類は100種を越えると言われています。マンカラには、カラハ (Kalah)、オワリ (Oware/Owari/Awele)、コンカク (Congklak)、オムウェソ (Omweso)、などと呼ばれているものもあります。民芸品店や、輸入玩具店で手に入ることもありますが、1980年代、シミュレーションウォーゲームの老舗、アヴァロンヒルがこのゲームを「アワリ」という名前で発売したのが印象的でした。

マンカラは農業を象徴的に表したゲームで、駒には穀物の種を用います。最近ではトウモロコシを使うといいと書かれた解説もありますが、トウモロコシはアメリカ原産で、1500年頃、旧大陸に渡って来たものですから、紀元前4000年のムードは出ませんね。麦だと小さ過ぎますから、豆などを駒に使うといいのではないのでしょうか。パンフレットの表紙に印刷したマンカラは穴が開いていないので、豆だと転がってしまいます。こうした平らなものの上でやる時はおはじきのようなものがあるのですが、学校などでやる時はクリップがお勧めです。(横浜システム工学院専門学校解説)

